

11/25/1946

正直國際軍事裁判所

亞米利加合衆國、其他

對

荒木貞夫、其他

法廷書

予從宣文夫ハ良心ニカケテ下記ノ事實テアルコトヲ
誓約スルモノテアリマス。

私ハ一九三六年岡田内閣ノ時内閣大臣テアリマシタ。
其間所謂「一九三六年ノ軍部飯沼」ガ帝都ニ勃發シ
タノテアリマス。即テ岡田首相ヲ暗殺セントスル一
計壹方暴徒ニ依ツテ爲サレタノテアリマス。

私ハ岡田海軍大將ガ首相官邸ニ包囲サレテキタ三日
間臨時總理大臣ノ役ヲ務メマシタ。

私ハ現在モ當時岡田大將ガ國方如何ニ年部ニ懇
マサヒタコトヲ良ク記憶シテアリマス。

當時陸軍ノ最高首領部裏ニ2003年大臣陸軍大將川島
義之、參謀總長院官殿陛下（此ノ御方ハ余り御名
役ナサラナカツタノテス）參謀次長陸軍大將杉山謙
育總監陸軍大將渡邊義大郎、軍務局長陸軍少將今井
清、陸軍司令官陸軍大將藤次郎、陸軍參謀長
陸軍少將板垣篤方居ツタノテアリマス。

Exhibit No. 166

一九四〇年ノ既年公會近衛首領方大政興國會ヲ創設
スペク決意シク時ニ彼ハ私ニ此ノ會ノ執行ヲ認可化
スルコトニ忠告ト相謀ラホメタノテアリマス。

私ハ既々此ノ會ヲ設立スペク近衛公ノ在命シタ事
公會ノ委員ト合意シクノテアリマス。

上記大佐御本辰五郎ハ該委員會ノ一委員テアリマシ
テ、其名彼ハ編審委員ノ地位ヲ占メ上記會ノ業務ニ
掌ツクノテアリマス。大政興國會ノ設立會ハ五票ナ
ル歐洲立ニ政治國体ハ幾直ニ皆無トツタノテアリ
マス。

此ノ結果既にヲ完全ニ達成シタ處ノ一重要ナル公事結
社方創設サレテ、政府ノ役人近方ノ重要ナル地位
ノ若干ヲ占メクノテアリマス。

上記大政興國會ハ政府カラ一年間八〇〇萬圓迄ノ範
囲テ資金方援助サシマシタ。該組織体ハ全國ノ各
縣、各直、各町内ニ停開設シタノテアリマス。

後 育 文 夫

一九四〇年六月十八日日本國東京監督會内ニ於テ上
記後育文夫ハ下記係官ノ署名ノ前ニ宣誓記名ス。

アーヴ・エイ・サンダスキー

六月。 法務局

1946.9.2

明 告

予テエリ・エム・スミヨン、ハ茲ニ左ノ如ク謹明ス。
予ハ日英兩國語ニ通じシ且本日前記供述書ヲ上記卷
眞丈夫ニ日本語ニテ讀ミ聽カセタリ。

之ヲ爲スル當リ予ハ前記供述書ノ内容ヲ英語ヨリ日
本語ニ忠實且正確ニ翻譯セリ。

右後眞丈夫ハ該供述書ノ内容が眞實ナル旨並該供述
書ニ宣誓ノ上快ク署名スル旨述べタリ。

右後眞丈夫ハ予ノ面前ニ於テ正式ニ宣誓シ且供述書
ニ予ノ面前ニテ宣誓ノ上署名セリ。

該宣誓ヲ爲シ且該供述書ニ署名スルニ忘イテノ凡テ
ノ手紙ハ日本語ヨリ英語ニ、又英語ヨリ日本語ニ忠
實且正確ニ翻譯セラレ右供述者ニヨリ充分理解且了
解セラレタリ。

一九四六年六月十八日

日本國東京ニ於テ

エス テエリ・エム・スミヨン